

①主催団体紹介

○公益財団法人 生命保険文化センター

公正・中立な立場で生活設計や生命保険に関する情報提供等を行うことを目的に、1976年に設立。「消費者啓発・情報提供活動」「学術振興事業」「調査活動」の事業を3つの柱に、中学校・高等学校・大学等への講師派遣、一般消費者や消費生活相談員等対象の学習会の実施、学校教育用副教材や消費者向け小冊子の作成、生活保障に関する意識や生命保険の加入実態等を探る調査活動を行っています。

<学校向け副教材>

①「冊子」副教材



【中学校向け】
マンガ「生命保険って何だろう？」
(2022年度)

提供部数

56,222 部

【高校向け】

生活設計に役立つワーク&データ集
「君とみらいとライフプラン
(2022年度版)」

提供部数(生徒用ワークブック)

123,780 部



②「プレゼン用定型レジュメ」副教材

(1)家庭科等向け

【中学校向け】「リスクに備える」

【高校向け】①「生活設計とリスクへの備え」

②「事例から考えるリスクマネジメント」

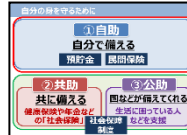
(2)社会科・公民科向け

【中学校向け】「人生100年時代に必要な備えとは？」

【高校向け】「自助・共助・公助について考えよう」

(3)全科目共通

【中学校・高校向け】「成年になるということ」



副教材の詳細やダウンロード
については、当センターHP
をご参照ください。



<学校向け講師派遣(オンライン・オンデマンド含む)実績>
(2022年度)

実施回数

687 回

受講者数

32,559 名

○一般社団法人 日本損害保険協会

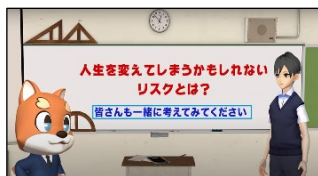
損害保険業の健全な発展及び信頼性の向上を図り、もって安心かつ安全な社会の形成に寄与することを目的として、1946年に設立。本目的を達成するためさまざまな事業を展開していますが、そのうちのひとつとして「損害保険の普及啓発及び理解促進に資する事業」に取り組んでいます。具体的には、「中学校・高等学校向け副教材の提供」、「高校生・大学生・一般消費者・消費生活相談員向け講演会や勉強会への講師派遣」や「ホームページによる情報提供活動」などを展開しています。

<学校向け副教材等>

①高校生向け副教材 **New**

明るい未来へTRY!～リスクと備え～

高校生が「やってみたい!」と思っていることに潜むリスクと損害保険の役割について、アクティブ・ラーニング形式で学習する教材です。動画教材、パワーポイント版もあります。また、本教材を活用した授業展開例を紹介する動画もごさいますので、授業で活用される際の参考としてこちらもぜひご覧ください。



<動画教材イメージ>



<授業展開例動画イメージ>

詳しくはQRコードから
ご覧ください。



(冊子) 明るい未来へTRY!～
リスクと備え～ (2022年度)

提供部数(生徒用ワークブック)

36,736 部

<学校向け講師派遣(オンライン・オンデマンド含む)実績>
(2022年度)

実施回数

278 回

受講者数

47,891 名

②損害保険教育支援サイト「そんぼ学習ナビ」 **New**

当協会が提供している教材を年齢別にまとめています。また、文部科学省や有識者からの金融経済教育、損害保険教育に関するメッセージや授業実践例を紹介する「そんぼジャーナル」といったお役立ち情報も掲載しています。

詳しくはQRコードからご覧ください。

②新学習指導要領への対応

中学校では 2021 年度、高等学校では 2022 年度より実施されている、以下新学習指導要領の内容を意識した授業に本セミナーをぜひご活用ください。

中学校・社会科(公民的分野)

社会科「中学校学習指導要領」には、『分野の内容に関係する専門家や関係諸機関などと円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した課題を追究したり、解決したりする活動を充実させること』と記載され、次のような知識を身に付けることとしています。

(ア) 社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解すること。

(イ) 財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解すること。

また、解説には、『その際、貯蓄や民間の保険などにも触れ、社会保障の充実・安定化のためには、自助、共助及び公助が最も適切に組み合わせられるよう留意することが求められていることについても理解できるようにすることが大切である。』と記載されています。

高等学校・公民科(公共)

公民科「高等学校学習指導要領」には、『職業選択、雇用と労働問題、財政および租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、(途中省略)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、(途中省略)について理解すること』と記載されています。

また、解説には、『貯蓄や民間保険などにも触れ、自助、共助及び公助が最も適切に組み合わせられるようにするにはどうすればよいか多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにすることが考えられる。』と記載されています。

高等学校・家庭科(家庭基礎)

家庭科「高等学校学習指導要領」には、『家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解すること。』と記載されています。

また、解説には、『家計管理については、収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解できるようにする。その際、生涯を見通した経済計画を立てるには、教育資金、住宅取得、老後の備えの他にも、事故や病気、失業などリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴(メリット、デメリット)、資産形成の視点にも触れるようにする。』と記載されています。

詳細については、以下 URL より生命保険協会 HP をご参照ください。

○中学校学習指導要領

<https://www.seiho.or.jp/activity/literacy/opinion/20170623.html>

○高等学校学習指導要領

<https://www.seiho.or.jp/activity/literacy/opinion/20180727.html>